

2024年12月28日(日) インマヌエル富士見台キリスト教会

タイトル「星に導かれた博士たち」マタイ2:1-23 野田禎

おはようございます、みなさん。最後の礼拝の日をこのような形での礼拝になり申し訳ありません。26日の朝から少しずつ熱が上がっていき、夜インフルAと分かり、ある部屋で隔離して回復に励んでおります。皆様のお祈り、そして多くの励ましをありがとうございます。元旦礼拝には回復していますので、皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

このクリスマス、光というテーマで話をしてきました。

今日は「星に導かれた博士たち」というテーマでお話しします。マタイの福音書2章1-23節には、救い主イエス様が生まれた時に起こった出来事が書かれています。この物語を通して、私たちに対する神様の深い愛と導きを学びましょう。

星に導かれた博士たち(マタイ2:1-23)

今日のみことばは

"博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。"

マタイの福音書 2章9節

1. 神様が羊飼いや博士たちを覚えておられた

イエス様の誕生の知らせを最初に受け取ったのは羊飼いたちでした。羊飼いたちは当時、社会的に低く見られる人たちでしたが、神様はそんな彼らを最初に選び、救い主の誕生を知らせました。これは、神様がどんな立場や状況の人も愛し、憐れみを注がれることを示しています。

一方、博士たちはユダヤ人ではなく「異邦人」でした。異邦人とは、神様の契約の外にいるとされていた人たちのことです。しかし、神様は彼らにも救い主の誕生を知らせました。博士たちは天文学を専門にしており、当時の天文学は今で言う占星術に近いものでした。彼らは星の動きを観察し、その中に政治や経済、農業などに関するメッセージがあると考え、人々の生活に役立てていました。そして星は、人の心の糧や救いを示すものでもあると信じていたのです。

そんな博士たちは、ある夜、これまでに見たことのない特別な星を発見します。彼らはそれを見て、「この星は救い主の誕生を知らせている」と確信しました。この確信は彼らの知識だけで得たものではなく、聖霊が特別に与えたものでした。「全人類が求めていた本当の神様が、救い主を送る時、東方に特別な光が現れる」と彼らは信じていたのです。

2. 博士たちの旅と肥沃な三日月地帯

博士たちは何人だったのでしょうか。ある讃美歌では三人とされていますが、聖書の原文では複数形であることしかわかりません。もしかすると三人以上のグループだったかもしれません。彼らはきっと仕事や家庭を持つ中で、大変な思いをして旅に出る決断をしたのでしょう。あるいは国の要職を務めていて、簡単には旅の許可を得られない立場だったかもしれません。

ルカ1章には、神様がマリアとエリサベツという信仰の友を備えてくださったことが記されています。同じように、この博士たちも一人ではなく、互いに励まし合いながら旅をしていたことでしょう。それも神様の深い憐れみと備えだったのだと思います。

博士たちは星を観察していて、ある時こう話したかもしれません。

「不思議な星だ。今まで見たことがない。この星は、救い主がお生まれになったことを知らせているのではないだろうか。」

「確かにそうだと思う。私たちが待ち望んでいた救い主の誕生を示している星に違いない。」

「救い主に会えるチャンスを神様が与えてくださったのだから、これを逃してはいけない。」

こうして彼らは星に導かれる旅を始めました。しかし、東方からイスラエルまでの道は決して簡単なものではありませんでした。直線距離で進むと、広大な砂漠地帯を越えなければならず、それはほとんど死を意味します。ですから、彼らは肥沃な三日月地帯を北上し、シリアを通り、イスラエルに向かう長い道のりを選んだと考えられます。この経路は山々や河川に沿って進むため、旅の途中には多くの困難があったことでしょう。

博士たちは、星が時折見えなくなることも経験したはずです。その時には何日、あるいは何ヶ月もその場で待ったことでしょう。そして星が再び現れると、また旅を続けました。このように、神様の導きに信頼し、忍耐を持って進む姿は、私たちにも深い教訓を与えてくれます。

3. 博士たちとイスラエルの民の導き

博士たちの旅は、イスラエルの民がエジプトを脱出した後、荒野を旅した姿にも似ています。イスラエルの民は、昼は雲の柱、夜は火の柱に導かれて進みました（出エジプト記13:21-22）。雲の柱と火の柱は、神様がどんな時も彼らと共におられることを示していました。

イスラエルの民は、雲や火の柱が動けばそれに従って移動し、柱が止まればその場でキャンプを張って休みました。このように、神様の導きに従うことで、彼らは約束の地に向かって進んだのです。

博士たちが星を見て旅を続けた姿は、このイスラエルの民の姿と重なります。博士たちは星が現れるとそれを頼りに進み、星が見えない時は待つことを選びました。これは、神様の導きを信じ、従うことの大切さを教えています。

4. イエス様との出会いと贈り物

博士たちはついに星に導かれてベツレヘムに到着し、イエス様に出会いました。彼らは幼子イエスを見た時、ひざまずいて礼拝し、黄金、乳香、没薬という贈り物を捧げました。・ 黄金: イエス様が王であることを象徴します。・ 乳香: イエス様が神であることを象徴します。・ 没薬: イエス様が将来苦しみを受ける救い主であることを象徴します。博士たちは自分たちの最も大切なものを捧げ、救い主に対する礼拝

を表しました。私たちもまた、神様に感謝の心をもって日々礼拝することが大切です。

5. 博士たちとヨセフたちへの夢での導き

博士たちは、イエス様との出会いの後、夢の中で神様から「ヘロデのもとに戻らないように」と警告を受けました。彼らはその警告に従い、別の道を通して故郷に帰りました。同じように、ヨセフも夢で「エジプトに逃げなさい」という神様の指示を受け、夜のうちにマリアとイエス様を連れて旅立ちました。

ヨセフとマリアはおそらく、まずヘブロンという街に向かったと考えられます。ヘブロンにはエリサベツとザカリアという信仰深い夫婦が住んでおり、ヨセフたちは彼らの家で助けと励ましを得たことでしょう。エリサベツたちは、ヨセフとマリアに危険を避けるための知恵や休息の場を提供したのかもしれませんが。ヨセフたちは、安心して話せる信仰の友が備えられていることを通して、神様の計らいを実感したはずで

その後、ヨセフとマリアはエジプトへの準備を整え、次の旅を始めました。神様は常に彼らを守り、必要な助けを与えておられました。

結論: 神様の導きを信じて進む

今年を振り返ると、楽しいことや嬉しい出来事があった一方で、突然の試練に戸惑うこともあったかもしれません。愛する方との別れを経験された方もあります。でも、救い主イエス様を送ってくださった神様は、どんな時も私たちと共にいてくださるお方です。

詩篇 119:105 には、「あなたのみ言葉は私の足のともしび、私の道の光です」とあります。博士たちにとって星はその光でした。私たちにとっては、神様のみ言葉が私たちの道を照らし、私たちが進むべき道を明るく示してくださいます。

いよいよ今年も締めくる時となりました。神様が守り導いてくださったことを思い返しましょう。そしてこれからもイエス様を信じて歩いていきましょう。

最後に今日のみ言葉を一緒に言ってみましょう。

"博士たちは、王の言ったことを聞いて出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。"

マタイの福音書 2章9節